

たまのまちづくり通信

テーマ

～「新・人流港」へ!～

人が集い交流する瀬戸内の港町 玉野

発行：玉野市中心市街地活性化協議会事務局

〒706-8533 玉野市築港 1-1-3(玉野商工会議所内)

TEL:0863-31-5011 FAX:0863-31-5558

E-mail:info@tamanocci.jp

<http://www.tamanocci.jp/ccam/>

発行日：平成25年4月



中心市街地活性化へ“たまの湯”開業

JR宇野駅東の遊休地は25年もの間動きがなかったことにより、中心市街地の魅力喪失の大きな要因となっていました。その閉塞感を打破すべく、昨年「たまのミュージアム」、「クリエイター交流拠点 uz(うず)」のオープンに引き続いて、3月30日に「たまの湯」が開業しました。規模や設備の充実はもとより、瀬戸内の景観が堪能できるロケーションで広域からの集客が期待でき、賑わい創出と経済効果の波及を目指していきます。

玉野市中心市街地活性化協議会 会長 三宅 照正の談話

瀬戸内温泉「たまの湯」は、玉野市中心市街地活性化基本計画の核となる事業として位置づけられており、中心市街地活性化事業全体の起爆剤であり推進役でもあります。また、商店街や行政、商工会議所等と連携して、来街者や観光客を滞留させ市街地へと回遊させる中核的交流拠点となる重要な施設となっています。

具体的には、市内外からの圧倒的な集客力を“まちあるき”や観光にどう繋げていくか、また近隣の飲食店や商業施設に経済効果をどうやって波及させていくかなど、我々と共に取り組んでいく課題であると考えております。

さらに、「たまの湯」は公共性に富んだ施設でもあり、地元特産品の販売コーナー、講座、作品展などが開催できるコミュニティブースを備えるとともに、地域における観光、アート、グルメなどの高い情報発信能力を有することも大きな特徴であります。

この「たまの湯」が、来街者や観光客から人気スポットとなり、地域住民から愛される施設として地域の活性化に大いに寄与していくことを期待しております。



たまのミュージアム

企画展示コーナーのご案内
(5/31まで)

昨年11月に第2回玉野4コマまんが祭りが開催され「ののちゃん」を始め全国紙の有名4コマまんがが集合しました。巨大4コマまんが製作や、ののちゃんスタンプラリーなど大盛況のうちに終了いたしました。

いしいひさいち氏や一条ゆかり氏の他にも玉野市出身の有名人は多く、順次ミュージアム内の企画展示コーナーにて定期的に紹介していきます。

まずは12月～2月にかけて「イントゥルダダー」や「ミッドナイトイーグル」でおなじみの小説家「高嶋哲夫」展を開催し、著作や原稿など約100点を展示しました。

3月20日からは、戦国武将イラストの第一人者、絵巻作家「正子公也」(まさごきみや)氏の武将画展を開催中です。織田信長や宮本武蔵などの有名武将を始め、ミュージアムのために描きおろした玉野ゆかりの「常山の鶴姫」も初展示です。また、通路沿いに展示してある「60歳以上生きた50人の戦国武将」の作品は圧巻です。



正子公也 -Kimiya Masako- 武将画展

～常山の鶴姫と岡山ゆかりの戦国武将たち～

3.20(水)～5.31(金)

※初日(20日)に正子公也来場!
先着50名にサインカードプレゼント!!

MERCA 場所 たまのミュージアム
岡山県玉野市宇野1-34-1
玉野ショッピングモールメルカ2階

時間 10:00～19:00
(水曜休)※初日を除く

入場料 無料
お問合せ 0863-31-6131
協カ アトリコ正子邸

場所 : ショッピングモール メルカ2階
開館時間 : 10:00～19:00
休館日 : 毎週水曜日
お問合せ : 31-6131 **入場無料**

ぜひお越しくださいませ。必見です。

移住プロジェクト (うのづくり実行委員長 森美樹)

7年半で50組100人の定住人口増を目指して

約1年半前から、築港で移住者支援に取り組み、半年前にはクリエイター交流拠点uz(カフェ&ギャラリー)をオープンさせています。今現在で11組23人の移住者を受け入れることが出来ました。関東地区からの方が6割を占め、築港・宇野地区を中心に物件の紹介から、引っ越しの手伝いまで幅広い支援を行っています。

また、地元の人たちの紹介や移住者間のネットワーク、交流など移住後の心豊かな生活のお手伝いや、職づくり・お店づくりの手伝いもさせてもらっています。最も大きな課題は、紹介できる物件が

少ないことにあります。玉野市空き家バンクや不動産会社の協力を得ながら、一人ずつ一組ずつ、まちなかに住む人を増やすとともに、空き店舗を活用したショップや工房の開店にも力を入れていきたいと思っています。

「うのづくり」とは、・・・『うのに住(す)んで+つくる』

- ・定住人口・仕事の増加、空き物件の活用
- ・観光資源・賑わいの創出、文化拠点と連携
- ・交流拠点の設置と新たなコミュニティの形成
- ・HP URL: <http://www.unozukuri.com/>

朝ごはん会



引っ越し風景



ワークショップ



どてきり部会

(吉本誠部会長)

幻のカニ「どてきり」を玉野名物にして街を元気に

「どてきり」を地元の名産として復活させることは、新たな1次産業の確立であり、農・商・工の連携を始め、他分野とのコラボレーションにも期待ができると確信しています。今年度は養殖実験の最終年度と位置づけ、次年度より本格的な養殖を開始する。

《今年度の重点取り組み課題》

- ・玉野市内で野池を購入し、次年度から6次産業まで視野に入れた事業を構築する。
- ・バングラデシュで合弁会社を設立し、種苗生産研究所を建築する。
- ・国内1部上場企業と「どてきり」の2次加工商品開発に着手する。

「アルス・プラージュ」(海辺のアート)計画

リゾート YOSHIMASA を「アルス・プラージュ」と改名し、5階以上を分譲マンションとして販売し、居住人口の増加に寄与する。

《今年度の重点取り組み課題》

- ・2～4階はクオリティの高いアート空間ホテル。
- ・5～10階は洗練されたマンションに全面改装。
- ・エントランスから最上階までアート空間で統一。

アルスプラージュ8階からの眺望



市街地整備改善計画 (中心市街地地区)

誰もが安心して快適に生活することができる環境整備と空間づくりを行い、高齢者が歩いて暮らすことができ、福祉が充実した人にやさしい街を目指していきます。また、宇野港周辺～メルカ周辺を効果的に結ぶ動線の環境整備を実施することで中心市街地の回遊性を高め、市民や観光客・来街者の“まちあるき”の促進を図っていきます。

(平成24年度～28年度にかけて段階的に事業を実施予定)

玉野市中心市街地活性化基本計画に掲載されている市街地整備関連の事業については、地元住民・コミュニティ・商店会などの方々と行政関連部署による「まちづくり協議会」を立ち上げ、協議を進めています。

①道路美装化(10路線) 24～27年度

昨年末から始まった、市道浜崎小池之浦線を皮切りに、沿道のカラー舗装と側溝整備により、歩行者が安全に歩くことができる歩行空間を確保する。



②中央公園魅力化整備 25～27年度

施設老朽化に対応して、トイレの改修バリアフリー化、遊具の設置、園路・広場・照明・植栽の整備などにより、ゆとりと安らぎの拠点づくりを行う。

③4コマ漫画案内板設置 25年度

ののちゃんの4コマ漫画をエリア内10ヵ所に設置し、中心市街地の観光PRと来街者の観光意欲の向上を図る。

④歩行者用サイン設置 27年度

観光資源やアートのスポットへの歩行者用サインをエリア内21ヶ所に設置する。

⑤街路灯整備 28年度

安全な歩行空間とエリア内の回遊性を高めるため、25ヶ所に設置する。

瀬戸内国際芸術祭2013

3年前の第1回は来場者数93万人に及んだが、大多数の観光客は直島目的のため、JR宇野駅からフェリー乗り場まで素通りする状況でありました。

今回は玉野市が正式参加し、宇野港周辺会場として9作品を展示することとなりました。それにより、会場としてルートに入れている人が多く、前回より多くの観光客が「宇野のチヌ」を始め、巨大プロペラや錨、海のmastなどの作品を鑑賞されています。

この好機を逃さず、観光客や来街者のまちあるきを促進し、近隣のアート施設や観光地、飲食店などへの回遊策の実施が重要になってきます。そのため、「たまの☆おもてなし推進委員会」を中心に官・民・ボランティアなどの協力体制を築き、シティセールス、地域活性化、交流人口の増加などを目的に盛り上げていきます。

中心市街地にとっても今まさに、瀬戸内国際芸術祭、「たまの湯」開業など相乗効果が発揮できる絶好の機会となっています。私たち一人一人が“おもてなし”の心を持つとともに、主体的に行動していきましょう。

【瀬戸内国際芸術祭連携事業 一店逸品】

・市外、県外からの観光客に宇野港周辺の飲食店情報を提供し、エリアへの滞留促進と経済効果を狙う。今回はお食事処・カフェ・スイーツ中心とし、個店のこだわり・自慢の品などの逸品を選定している。まずはホームページで訴求し、6月から「じゃらん」のフリーペーパーを発刊する。HPは「宇野港おもてなし」で検索、市役所・観光協会とリンク。

みなと部会

(三宅定子部会長)

宇野港ウォーターフロントの賑わい創出

みなと部会は、これまで玉野市中心市街地活性化基本計画のサポート役として、様々な提言や「小さな子どもたちの手形」事業、親水性階段整備事業などを実施してきました。今後も国とのパイプを活かしながら、港湾関係に精通した県や市、地元企業からなる部会委員との情報交換、協力体制のもと、宇野港ウォーターフロントの活性化のため、玉野市の繁栄のために活動していきます。

今まさに、世界的なアート祭典である瀬戸内国際芸術祭への参加により、宇野港がクローズアップされています。この機会に芸術祭との連携策や港湾の整備・魅力化など、メンバーや関係部署と協議しながら、取り組んでいきたいと思えます。

《検討課題》

- ・対外的な情報発信の工夫・強化
- ・護岸の安全整備(港のライトアップ)
- ・ポートセールス(入港・寄港促進)
寄港による飲食店他商業活性化
- ・瀬戸内国際芸術祭との連携事業
- ・ビジターバス、マリナー設置
- ・JR宇野線の増便
- ・フェリーの存続
- ・回遊拠点の整備

三井造船(株)玉野事業所建造の
宇野港周辺清掃活動 自衛艦「ぶんご」の乗組員と共に



ビルボードプロジェクト(ライトアップ)
(アラキーの写真をビル壁面に設置)

